

「新型コロナウイルス」ワクチン接種の進め方について（緊急提言）

2月17日、「新型コロナウイルス」ワクチンの医療従事者に対する先行接種が開始されるとともに、19日には河野太郎大臣から、従来3月中旬頃とされていた医療従事者等に対する優先接種を3月早々から開始することとし、出荷するワクチン数量が発表された。

我が国が新型コロナウイルス感染症を克服するためには、いよいよ開始されたワクチン接種を何としても成功させ、「国家レベルで集団免疫」を獲得することが切り札となる。

一方、いまだかつて経験したことのない「全国民を対象にしたワクチン接種」を円滑に進めるためには、全国各地で十分な人材、資材、接種場所等の確保など万全の準備を整える必要がある。そこで、実際の接種を進めるに当たっては、これまでのワクチン接種はもとより、新型コロナ対策における経験を踏まえつつ、接種体制、システム、副反応や医療機関の負荷軽減など、「国民の安全・安心を第一に進めていく」との基本姿勢で臨まなくてはならず、しっかり検証を行いながら、丁寧に進めることが不可欠である。

また、ワクチン接種に携わっていただく医療人材については、新型コロナへの対応や通常診療を行っていただいております、その負担について十分に配慮する必要があります。

については、政府におかれては、現場の状況を踏まえ、下記の項目について十分かつ丁寧に対処されるよう提言する。

1. 医療従事者等に対する優先接種に際しては、当初の予定より百万人増加することとなった優先接種対象者への適切な対応も含め、ワクチンの総数を十分に確保・供給し、できる限り速やかに医療従事者等への優先接種を完了し、高齢者に対する優先接種への移行を図ること。また、各都道府県の実情に応じた接種が円滑に実施できるよう、ワクチン供給の範囲内で都道府県において弾力的に対応できる仕組みとするとともに、医療従事者等への負荷軽減や確実な体制整備を進めながら、現実的なスケジュールのもとに、丁寧かつ着実に進めること。

その際、現在進められている先行接種で得られた安全性に係る知見等を速やかに都道府県と共有するとともに、供給量に制約がある中で国としての接種に対する考え方を示すこと。

また、1バイアルからの採取可能数は接種計画に大きな影響を及ぼすことから、6回分採取可能な針とシリンジの確保の見通しについて早期に示すこと。併せて、ワクチンの希釈に必要な生理食塩水用の針とシリンジについても、必要量を現場で確保できるよう、国としても対策を講ずること。

2. 4月から始まる予定の高齢者に対する優先接種については、医療従事者等に対する優先接種以上に大規模なものであり、安全かつ円滑に全国での接種が行われるよう、各自治体と緊密に連携し、接種体制、副反応、医療機関の負荷軽減やシステム運用などをしっかりと検証しながら課題を洗い出し、改善につなげるとともに、地域の実情に応じ丁寧に進めていくことが望まれる。その際、医療従事者等の優先接種の進捗見込みも念頭に、医療機関の負荷軽減にも配慮する必要がある。については、4月からの高齢者への優先接種に際しては、安全かつ円滑な実施と高齢者の安心のため、例えば実証を兼ねて段階的に接種範囲を広げ検証・改善を着実にを行うなど、ワクチン供給体制を踏まえた現実的なスケジュールのもと丁寧に進めること。

3. ワクチン接種を円滑に推進するため、現場での準備が進み始めている現状に鑑み、国として直ちに、今後のスケジュール等について、その目安を示すとともに、ワクチンの種類や量、供給時期及び副反応等についての情報を現場と十分に共有し、国と地方で接種体制やシステムも含めた諸課題について共同で検証しながら丁寧かつ着実に進めること。

令和3年2月22日

全国知事会新型コロナウイルス感染症ワクチン接種特別対策チーム

チームリーダー	鳥取県知事	平井 伸治
副チームリーダー	三重県知事	鈴木 英敬
副チームリーダー	山口県知事	村岡 嗣政